様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２５年６月１６日現在

機関番号：４３６０１
研究種目：　基盤研究（C ）
研究期間：2010～2012
課題番号：２２５３０８９７
研究課題名（和文）　草創期の保育者養成をめぐる総合的研究（１）
　　－松野クララとその教え子たちの歩み－
研究課題名（英文）　Research into the training of teachers in the early days of Japanese kindergartens (1)
　　-The contribution of Matsuno Clara and her students-
研究代表者
立浪　澄子（TACHINAMI SUMIKO）
長野県短期大学・その他部局等・教授
研究者番号：20241193

研究成果の概要（和文）：1876 年、日本における最初の幼稚園主任保姆（現在の幼稚園主任教諭）となった松野クララは「結婚のため来日したが、たまたま幼稚園保姆の資格を持っていたため、主任保姆に採用された」というのがこれまでの定説だった。今回の研究によって、クララは、岩倉視察団等の情報により、日本に幼稚園設立の計画があることを察知した婚約者松野ハザマの勧めによって保姆資格を取り、来日した可能性が高いことが判明した。

研究成果の概要（英文）：Clara Matsuno was the first kindergarten teacher in Japan. For a while it was believed that she only came to Japan to marry Hazama Matsuno, and that her connection with Japanese kindergartens only started later.
But in my research I found out that Hazama had known that the Japanese Ministry of Education had a plan to start a new kindergarten, and that he encouraged her to get a kindergarten teacher's license while she was still in Germany.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２０１０年度	900,000	270,000	1170,000
２０１１年度	500,000	150,000	650,000
２０１２年度	100,000	30,000	130,000
年度			
年度			
総　計	1500,000	450,000	1950,000

研究分野：教育学
科研費の分科・細目：
キーワード：幼稚園、保育者養成史、松野クララ

１．研究開始当初の背景

（１）日本では制度的に分離している幼稚園と保育所の一元化を目指す、いわゆる「幼保一元化」が叫ばれて久しいが、「幼児期の保育（幼児教育）」が日本国民の人間形成にどのような役割を果たしてきたのかということの歴史的な解明は進んでいない。

（２）一元化も含めて幼稚園、保育所等の幼児教育の今後のあり方を客観的に展望するためには、特にその担い手である保育者が幼児教育の発展に果たした役割とその養成についての歴史的な流れ押さえることが必要である。しかし、どちらかと言えば、これま

では思想史的な研究が主体であり、基本的な事実を積み上げていく実態史の研究は遅れている。

（３）保育者の業績やその養成史については基本的な事実の誤認も多い。一例をあげれば、日本最初の幼稚園（東京女子師範学校付属幼稚園）の初代主任保姆松野クララの着任の経緯については誤解が今なお広く流布している。

２．研究の目的
（１）初めて専門的保育者が誕生した幼稚園の黎明期にさかのぼって保育者養成の経緯を探る。

（２）特に保育者養成の嚆矢となった東京女子師範学校附属幼稚園の初代主任保姆松野クララ着任の経緯を明らかにする。
（３）松野クララ着任の経緯の解明を通して、明治初期、幼稚園の導入を考えていた当時の田中不二麿を中心とする明治政府の文部官僚が、幼稚園をどのように位置づけ、具体的にどのような教育内容を取り入れようとしたのかを明らかにする。

３．研究の方法
（１）松野クララ着任の経緯について可能な限り文献記録を収集し、整理する。
①　先行研究文献
②　当時の行政資料
③　関係者の日記、手紙、紀行文等

（２）ドイツを訪問し、可能な限り関連資料を収集し、また彼女の子孫や関係者にインタビューを行う。
①　クララが学んだかもしれないというペスタロッチ・フレーベル・ハウスの前身の記録を現ペスタロッチ・フレーベル・ハウスで確認する。
②　松野クララとハザマのひ孫にあたるニコラウス・フォン・ハインツ氏に面会、インタビューを行う。

４．研究成果
＊以下、下線部分は今回の研究により初めて日本で報告されるものである。
（１）松野クララは旧姓を Clara Louise Zitelmann といい、1853 年 8 月 2 日に生まれた。父の名は Carl Friedrich Zitelmann、母の名を Emma Pauline Ulrike Tangermann という。住所は 107 Oranien Strasse Berlin である。
　1853 年 9 月 27 日、クララはベルリンの Sankt Marien 教会で洗礼を受けている。洗礼記録簿によれば、兄が一人姉が二人いたようであるが、成人したのは長姉 Emma Maria Luise とクララの二人だけだったようである。

（２）後に夫となる松野ハザマは弘化 4 年（1847）3 月 7 日生まれであるが、明治 3 年（1870）11 月 25 日、伏見満宮の家従としてドイツに渡った。1872 年 10 月ドイツ国内のエーベルスワルデ山林学校に入学、1875 年 6 月同校を卒業、8 月 2 日、日本に帰国して内務省に雇用された。
　その間 1873 年 3 月、ベルリンを訪れた岩倉使節団の木戸孝允や大久保利通と面談している。当時理事官だった田中不二麿もベルリンを訪問、アメリカやドイツで幼児教育施設を視察している。
　ハザマは 1874 年、クララと姉の立会のもとに洗礼を受けているということなので、1873 年 3 月当時、クララとハザマがすでに出会っていた可能性はある。

（３）ハザマ帰国と相前後する 1875 年 6 月 23 日、青木周蔵が木戸孝允宛にハザマとクララの婚約の報を送っている。

（４）田中不二麿は明治 8（1875）年 7 月 7 日、幼稚園開設の伺いを提出するが、このときは却下された。8 月 25 日再提出し、9 月 15 日許可された。

（５）クララは 1876 年 7 月 2 日マルセイユから日本に向けて出帆、8 月 14 日横浜に上陸した。木戸孝允はクララを横浜に出迎えたが、行き違いとなり、クララはそのまま東京へ向かった。

（６）、8 月 17 日クララは東京で木戸孝允、品川弥二郎と面会、書類不備のためすぐに結婚がかなわず、やむなく木戸別邸に寄留する。

（７）クララ来日の時期について、なぜクララはハザマと同時期に来日しなかったのか、1 年も来日が遅れたのはなぜだったのか、これまで疑問に思っていたところ、今回小島クリステル氏の協力により、明治 37（1904）年から明治 38（1905）年にかけて 6 週間近

くに渡って東京の松野邸に滞在した Katharina Zitelmann の著書（「Als die Welt noch offen war」の中で、「クララは夫ハザマの勧めで保姆資格を取得した」という Katharina Zitelmann の聞き取り記録を発見した。したがって、クララの来日の遅れは、その間保姆資格の取得に費やされていたゆえという可能性がある。

（８）これまで、日本の先行研究では、Fritz Putzier（1851-1901）（旧制第一高校教員）の妻とされてきたクララの姉は Putzier の妻ではなかったらしいことも判明した。

元ボン大学教授 Peter Pantzer 氏のご協力により、ドイツ Greifswald 市公文書館の資料を取り寄せていただいたところ、Putzer の妻 Emma は 1896 年から Greifswald 市 Karlplatz 3/4 の住所で登録されていることがわかった。戸籍役場の文書には 1907 年 9 月 10 日に死去、年齢は 55 歳とあった。死亡記録には Emma Putzier は寡婦とあり、旧姓は Suckerow、両親の名前は Ludwig Suckerow（父）と Alwine Suckerow （母）(旧姓 Houdelet)とあり、Emma Putzier の生年月日は 1851 年 10 月 22 日生まれとあった。

彼女には２人の息子 Erich と Otto があり、二人は Greifswald 大学に入学し、大学の文書館によると、２人の学生の母親、つまり Emma Putzier は 1907 年 9 月 10 日に死去したとあり、これは戸籍記録と一致する。

日本側の記録でも、東京都公文書館蔵「往復録　雇外国人関係」（明治 22 年）によって Putzier の家族は「妻エンマ、息男フリッツ、同エリッヒ、同オットー、娘エリザベート」とあり、Greifswald 市公文書館の資料は確かに Putsier の妻の記録であると思われる。

これらの資料から Putzer の夫人はクララの姉 Emma Maria Luise Zitekmann（1847 年 3 月 23 日生）とは別人である可能性が高いことが判明した。

（９）夫の死（1908 年 5 月 14 日）後、クララが二人の孫とともにドイツに帰国したことは知られていたが、その時期はこれまで定かでなった。

著者は東京都公文書館に保管されているクララが夫の著書を東京帝国大学へ寄贈した功績により東京府から表彰を受けた際の記録によって、彼女の帰国が 1910 年 1 月末であること、帰国後の居住地が Saalfeld Thüringen Deutschland であることを確認した。しかし、筆者が 2010 年 8 月 Saalfeld 史料館を訪ね、クララの戸籍を探してもらったが、見つからなかった。

ただ、その後訪ねたザールフェルド・ルドルシュタット史料館で、帰国後二人の孫 Waldemar Hazama Ohly と Hertha Fumi Ohly がチューリンゲン地方ザールフェルト近郊 Wickersdorf の寄宿学校に通っていたことを示す学籍簿が見つかった。二人は 1910 年 4 月 5 日、自由学校共同体ヴィッカーズドルフ(Freien Schulgemeinde Wickersdorf) に入学しているが、これはクララの日本出国時期を 1910 年 1 月末とすることと符合する。

（９）本研究がきっかけとなって、東京都内青山霊園内の外人墓地に埋葬されているクララの夫ハザマと娘フミの墓地の一角に２２５名余の賛同者を得て、クララの顕彰碑を建立した。

（10）
2010 年 8 月 15 日ミュンヘン市内でクララの

ひ孫 Nikolaus von Heinz（クララの孫 Hertha Fumi の次男）にインタビューを行った。ニコラウス氏は 6 歳の時母に死に別れたので、晩年まで母と一緒に過ごしていたと思われる曾祖母クララの話は覚えていないということだったが、母が残した洗礼証書や祖母（クララの娘フミ）の手紙、家族の写真、クララの両親の肖像画等を所持しており、筆者に見せてくださった。

なかでも特に興味深かったのはクララの義兄である長松幹（夫ハザマの姉章子の夫で長州藩士であり、のちに元老院議官を務め、男爵となる。）の肖像写真を持参されたことだった。長松夫妻は終始ハザマとクララの援護者であり、クララがドイツに帰国する際持ち帰ったものと思われる。

ハインツ氏と長松幹の肖像
（2010. 8. 15 ミュンヘンにて著者撮影）

（11）

クララは、来日後、書類の不備のため結婚できなかったり、9 月にはハザマが病気になったので看病に通うなど多忙な日を送っていたが、木戸孝允の助力で 9 月 26 日より女子師範学校の英語教師となった。ついで 11 月 6 日からは豊田芙雄らに保育法の伝習を開始、その総回数は翌明治 10（1877）年 3 月までに数十回に及んでいる。

また木戸は 11 月 6 日クララが九鬼隆一文部大丞より幼稚園保姆の辞令を受けていることも日記に記載している。

このようなクララの日常を見ると、とても「結婚のため来日したクララがたまたま保姆資格を持っていたために主任保姆に採用された。」というこれまでの通説には大きな疑問を持たざるをえない。

最初明治 8（1875）年 11 月、女子師範学校の読書教員として採用された豊田芙雄は翌明治 9（1876）年 10 月 2 日保姆の辞令を受け取っているから、日本人保姆の採用についても幼稚園開園の前年からすでに候補者を物色していた節がある。

（12）

茨城県立歴史館に保管されている豊田芙雄旧蔵資料の中にクララや豊田に教えを受けた第 1 回保姆練習科卒業生の名前を確認した。豊田や練習科生がどのような伝習を受けていたのを実証する資料といえよう。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 2 件）

立浪澄子著「「保育者の誕生 - 東京女子師範学校初代主任保姆松野クララ来日の経緯について - 」『幼児の教育』第 111 巻第４号 p.p.61-66　2012

立浪澄子著「松野クララ（嘉永 6 年～昭和 6 年）　日本最初の幼稚園教諭となったドイツ人女性」日独協会機関誌『Die Bruecke(架け橋）』653 号　p.p. 6－7　2011

〔学会発表〕（計 1 件）

立浪澄子「松野クララとその周辺」日本保育学会第 63 回大会研究発表 2010.5.22 於：松山東雲女子大学

〔図書〕（計１件）
立浪澄子、小林恵子、宮里暁美編『松野クララを偲んで - 顕彰碑建設の記録』松野クララ顕彰碑建設基金事務局発行　p.p.1-48 2011

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
　立浪　澄子（TACHINAMI SUMIKO）
　長野県短期大学・その他部局等・教授
　研究者番号：20241193

(2)研究分担者　なし
（　　）

　研究者番号：

(3)連携研究者　なし
（　　）

　研究者番号：